



将来に向けて持続可能な都市へ

元年度は、「新時代あやせプラン 21-後期基本計画-」が目指す将来都市像「緑と文化が薫るふれあいのまち あやせ」の具現化と「綾瀬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標の基に、「活力と魅力に満ちた綾瀬」の実現に向け事業を実施しました。

決算額は一般会計と特別会計5会計を合わせると、歳入が490億4千万円で0.9%の増、歳出は479億1千万円で0.8%の増となりました。

詳しくは、市ホームページで公開しています（本文と表中に記載の数値は、表示単位未満を四捨五入しています。金額、構成比などの数値は、個々の積み上げと合計額が一致しない場合があります）。

☎ 財政課 ☎ 70・5601

一般会計

◆歳入 一部大手事業所の減益などにより法人市民税が減となった一方、消防庁舎建設などに伴う市債の増と幼児教育・保育無償化による県支出金の増などにより、全体では4億2千万円の増となりました。

◆歳出 土木費は、綾瀬スマートインターチェンジ事業の進捗などにより、17億4千万円の減でした。消防費は、消防本部庁舎建設工事などにより、14億4千万円の増でした。総務費は、綾瀬市活性化応援寄附金に関して平成30年度を大幅に超える寄附申込みによる返礼品などへの対応や台風15・19号対応に伴う応急復旧業務、市議会議員選挙の執行などにより、4億4千万円の増でした。民生費は、物価スライドによる支給額の増などに伴う児童扶養手当の増や幼児教育・保育無償化の実施などにより、3億8千万円の増となり、全体では、4億3千万円の増でした。

特別会計

国民健康保険事業 被保険者の減少により、歳入では保険税収入が5.6%の減となり、歳出では保険給付費が2.4%の減でした。

下水道事業 公共用水域の水質保全と地域住民の居住環境を保持するため、公共下水道の整備や改築を行うとともに、老朽化した管きょや終末処理場施設の改築・更新工事により、歳出は前年度比7.2%の増でした。

深谷中央特定土地地区画整理事業 換地処分の完了公告や区画整理登記の支障となっている事業区域内の地役権登記関係の調整完了などにより、歳出は前年度比32.0%の減でした。

介護保険事業 要介護認定者の増加等による保険給付費の増などにより、歳出は前年度比5.7%の増でした。

後期高齢者医療事業 広域連合納付金の増により、歳出は前年度比3.8%の増でした。

各会計の決算額一覧

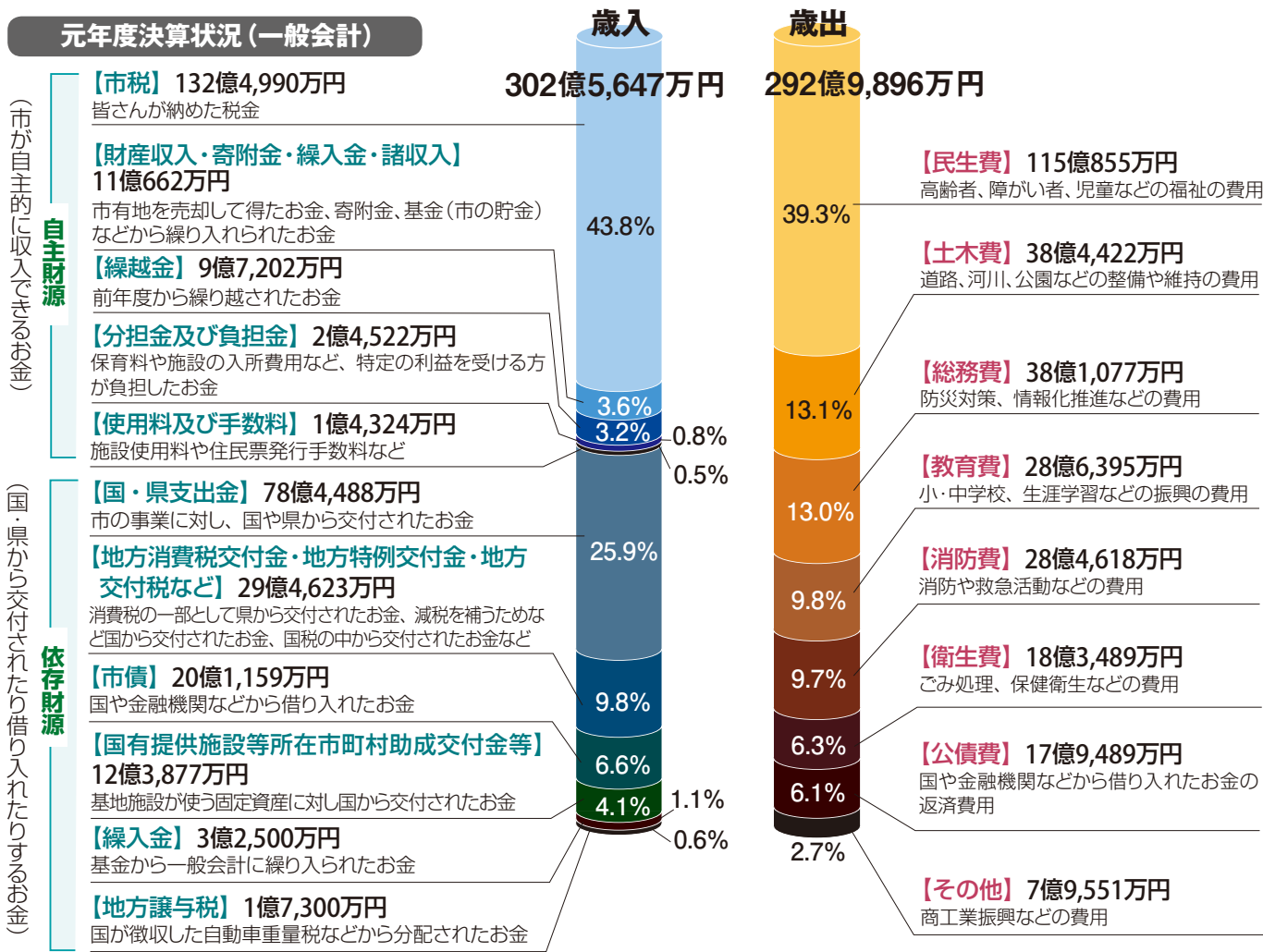
歳入		決算額	前年度との比較	
一般会計		302億5,647万円	4億1,552万円	1.4%
特別会計	国民健康保険事業	87億7,293万円	△4億6,727万円	△ 5.1%
	下水道事業	33億3,134万円	2億6,829万円	8.8%
	深谷中央特定土地地区画整理事業	2億6,275万円	△7,680万円	△ 22.6%
	介護保険事業	53億2,498万円	2億4,114万円	4.7%
	後期高齢者医療事業	10億8,858万円	4,625万円	4.4%
	計	187億8,058万円	1,161万円	0.1%
合計		490億3,705万円	4億2,713万円	0.9%

歳出		決算額	前年度との比較	
一般会計		292億9,896万円	4億3,002万円	1.5%
特別会計	国民健康保険事業	87億6,293万円	△4億6,727万円	△ 5.1%
	下水道事業	32億7,340万円	2億2,040万円	7.2%
	深谷中央特定土地地区画整理事業	2億2,744万円	△1億 712万円	△ 32.0%
	介護保険事業	52億6,457万円	2億8,182万円	5.7%
	後期高齢者医療事業	10億8,166万円	3,987万円	3.8%
	計	186億1,000万円	△3,230万円	△ 0.2%
合計		479億 896万円	3億9,772万円	0.8%

財政指標

市の比率が各基準を全て下回っている
ので、市の財政は健全です（市の比率の値は📊）。

基準 比率	元気	しんどい	ふらふら
		■早期健全化基準 (資金不足比率の場合は 経営健全化基準)	■財政再建基準
実質赤字比率 📊 赤字なし	■12.69%	■20.00%	
一般会計と深谷中央特定土地地区画整理事業特別会計を合算した赤字の程度			
連結実質赤字比率 📊 赤字なし	■17.69%	■30.00%	
一般・特別会計全体の赤字の程度			
実質公債費比率 📊 7.5%	■25.0%	■35.0%	
長期の借入金などの返済に使った金額の1年間の収入に対する割合			
将来負担比率 📊 48.8%	■350.0%		
借入金や職員の退職金などの将来的な負担額の1年間の収入に対する割合			
資金不足比率 📊 不足なし	■20.0%		
公営企業の料金収入に対する資金不足の程度（下水道事業特別会計）			
※各基準以上となった場合、財政運営の健全化を図るための計画策定など、さまざまな制約が課せられます			



主な事業（元年度の新規・拡充事業）

①都市づくり

綾瀬スマートインターチェンジ関連事業（3億3,479万円）

綾瀬スマートインターチェンジ新設事業を進めるとともに、開通に備えた交通基盤を構築するため、周辺道路網の整備を進めました。

「道の駅」の整備（3,064万円）

道の駅整備予定地の取得に向けて、土地の鑑定評価、補償費用の算定を行ったほか、測量を実施し、地権者から土地の境界について、同意を得ることができました。

②産業の活性化

生産性向上のための中小企業コンサルティング（148万円）

経営基盤が脆弱な市内中小製造業の活性化を促進し、生産性を高めるため、専門家による適切なアドバイスをを行い、企業の経営改善を図りました。

あやせ菜選野菜ブランドの強化（16万円）

「菜選 あやせコーン®」の商標登録により、さらなるブランド力の強化と高付加価値化で、安定した高価格の水準により、稼ぐ農業を推進しました。

ロケツーリズムによる誘客の促進（567万円）

ロケ誘致を進め、ロケ地看板の増設や前年度に制作した地域発信型映画「ルーツ」を活用して本市のPRを行うとともに、新たに観光情報提供サービスアプリによりロケ地などの観光資源やグルメ、イベントなどの情報発信を行いました。

③地域福祉社会の実現

高齢者の社会参加の促進（117万円）

本市独自の「多様性自発型社会参加」を促進するため「リーダーワークショップ」や「仲間づくりパッケージ」などの事業を実施しました。

生活困窮世帯の中学生等に対する学習支援の拡充（1,132万円）

市内の公共施設3か所で、生活困窮世帯の中学生等に対する学習支援事業を実施しました。

④子ども・女性政策

幼児教育・保育無償化の実施（1億8,962万円）

少子化対策として、幼稚園・保育所などの保育料を無償化することにより、子育てや教育に係る子育て世帯の費用負担の軽減を図ることができました。

民設放課後児童クラブの狭隘解消等のための支援（1,265万円）

児童1人当たりの専用区画面積1.65㎡以上を確保する基準を満たしていない放課後児童クラブに対して、移転に係る費用の一部を助成することでクラブの移転支援を行い、狭隘を解消するとともに定員の拡充を図りました。

⑤都市の質の向上

災害時に市民が入浴できる風呂の導入（1,469万円）

被災者の健康管理や衛生管理のため、災害用仮設風呂(2基)を導入しました。

消防本部庁舎の建設(14億4,469万円)

老朽化した消防本部庁舎を建設・移転し、防災拠点として機能強化を図りました。

多文化共生の推進(644万円)

日本語ボランティア教室への総合的な支援のほか、市役所庁舎と保健福祉プラザに多言語庁舎案内表示システムを導入するなど、「言葉の壁」の解消を図りました。